

## 愛知県立看護大学の教育改革に関する調査(4)

### ——病院で働く看護師の本学大学院への進学ニーズ——

賀沢 弥貴<sup>1</sup>, 山田 聡子<sup>2</sup>, 飯島佐知子<sup>1</sup>, 平井さよ子<sup>1</sup>, 小松万喜子<sup>3</sup>, 川田智恵子<sup>4</sup>

## A Report on Educational Reform in Aichi Prefectural College of Nursing and Health (4)

### —— Needs of Nurses to Study at the Graduate school of Nursing ——

Miki Kazawa<sup>1</sup>, Satoko Yamada<sup>2</sup>, Sachiko Iijima<sup>1</sup>, Sayoko Hirai<sup>1</sup>, Makiko Komatsu<sup>3</sup>, Chieko Kawata<sup>4</sup>

キーワード：大学院教育，進学ニーズ，看護師

#### I. はじめに

社会や医療が大きく変化する中で，看護現場における看護ケアのニーズも広がりを見せ，より専門的な多岐にわたる能力を高めることが看護職者に求められつつある。本学大学組織は愛知県内の看護職者への社会的期待に応えるために大学院教育のあり方について専門看護師認定課程，博士課程の設置について議論を重ねてきた。

平成17年度博士課程小委員会では，こうした検討をより具体的なものとするために，本学大学院への看護職および学部生の進学に関する意見や，本学大学院修了者の雇用に関する意見を広く調査した。本稿ではこの調査のうち，愛知県内の病院に勤務する看護師の調査結果を中心に分析を行い，看護現場で働く看護師のニーズの視点から本学大学院教育の課題を検討したので報告する。

#### II. 研究方法

##### 1. 調査対象

愛知県内の各病院の看護部門責任者に調査の趣旨と方法を説明し，調査協力を依頼し同意が得られた25施設に勤務する看護職（准看護師を含む）7184人を対象とした。

##### 2. 調査期間

平成17年6月中旬から7月下旬

##### 3. 調査方法

調査依頼文と自記式質問紙，厳封する封筒を各病院施設に郵送した。回収は無記名・封書による留め置き法とし，病院施設ごとにまとめてもらい返送を依頼した。

##### 4. 調査内容

###### 1) 回収率

対象は25施設で，回収数は4888人（回収率68.0%）であった。有効回答率は100%であった。

###### 2) 対象者の属性

(1)年齢，(2)取得免許，(3)最終学歴，(4)職位，(5)大学院入学資格審査の認知

###### 3) 調査項目

現在の本学修士課程への進学希望，専門看護師（以下，CNS）コース・認定看護管理者コース・助産師養成コース設置後の進学希望と希望領域，博士課程設置後の進学希望，進学時の仕事の継続の可否，進学の意味決定に問題となるもの及び大学組織への希望，大学院の各課程に関する意見。

<sup>1</sup>愛知県立看護大学（看護教育・管理学），<sup>2</sup>中部大学，<sup>3</sup>愛知県立看護大学（基礎看護学），<sup>4</sup>愛知県立看護大学（学長）

4) 分析方法

質問紙の返送をもって調査への同意とみなした愛知県内病院25施設の看護師（保健師免許を有する看護師を含む）4888人からの回答を分析対象とした。なお、准看護師は36人と少なかったため分析対象から除外した。また、助産師免許を有する者は大学院における助産師養成に関する意見の傾向が異なる可能性があるため今回の分析からは除外した。自由記述で求められた回答は要約して類以した内容をグループ化した。統計処理はSPSS13.0Jを使用した。

5) 倫理的配慮

対象者には調査目的、方法及び施設や個人が特定されないこと、結果の公表の可能性があること、研究目的以外に回答を利用しないなど看護研究倫理原則に則ってデータを扱うことを依頼文書に説明した。また、質問紙の返送をもって同意とみなした。

Ⅲ. 研究結果

1. 対象者属性

1) 年齢

平均年齢31.2 (SD±8.7) 歳。表1に示すように、20歳代が54.1%と最も多く、次いで30歳代が27.7%であった。

2) 取得免許

分析対象者4888人のうち、看護師免許と共に、174人(3.6%)が准看護師免許を取得し、475人(9.7%)が保健師免許を取得していた。

表1 対象者年齢

| N=4888 |               |      |
|--------|---------------|------|
| 年齢階層   | 人数            | %    |
| 20歳代   | 2643          | 54.1 |
| 30歳代   | 1354          | 27.7 |
| 40歳代   | 595           | 12.2 |
| 50歳代   | 244           | 5.0  |
| 60歳代以上 | 5             | 0.1  |
| 無回答    | 47            | 1.0  |
| 平均年齢   | 31.2(SD±8.7)歳 |      |
| 最年少    | 20歳           |      |
| 最年長    | 65歳           |      |

3) 最終学歴

看護師等養成所卒業者が最も多く、3631人(74.9%)であった。次いで、大学卒業者が639人(13.2%)、短期大学卒業者が556人(11.5%)と続いている。修士課程修了者は24人(0.5%)、博士課程修了者は1人(0.02%)であった。なお、無回答者は37人であった。

4) 職位

表2に示すように、非役職者の看護師が4300人(88.0%)であり、副主任から副看護部長クラスの役職についている者は551人(11.2%)であった。

5) 大学院入学資格審査の認知について

図1に示すように、資格審査制度・条件をよく知っている者は407人(8.3%)、制度は知っているが資格条件は知らない者が2313人(47.3%)、制度を知らない者が2149人(44.0%)であった。

年齢層別にみると、50歳代の認知度がもっとも高く、年代が低いほど認知していない傾向があった(表3)。学歴別にみると、大学院修士課程修了者の認知度がもっ

表2 対象者の職位

| N=4888 |       |      |      |
|--------|-------|------|------|
| 職位     | 人数    | %    |      |
| 非役職者   | 4300  | 88.0 |      |
| 役職者    | 551   | 11.2 |      |
| 役職者内訳  | 副主任   | 273  | 49.5 |
|        | 主任    | 48   | 8.7  |
|        | 副師長   | 197  | 35.8 |
|        | 師長    | 2    | 0.4  |
|        | 副総師長  | 21   | 3.8  |
|        | 副看護部長 | 10   | 1.8  |
| 無回答    | 37    | 0.8  |      |

図1 大学院入学資格審査への認知度

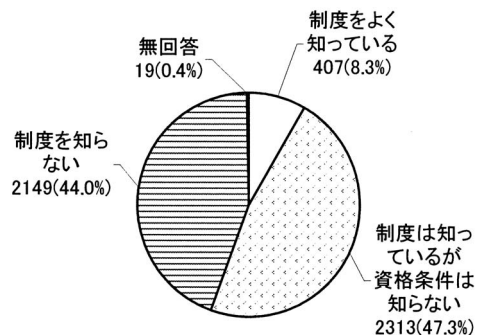


表3 大学院入学資格審査の認知と年齢層

|                  |    | 20歳代  | 30歳代  | 40歳代  | 50歳代  | 60歳代以上 |
|------------------|----|-------|-------|-------|-------|--------|
| よく知っている          | 人数 | 144   | 130   | 75    | 51    | 0      |
|                  | %  | 5.5   | 9.6   | 12.6  | 21.1  | 0.0    |
| 制度は知っているが条件は知らない | 人数 | 1191  | 654   | 313   | 127   | 2      |
|                  | %  | 45.2  | 48.4  | 52.8  | 52.5  | 40.0   |
| 知らない             | 人数 | 1298  | 567   | 205   | 64    | 3      |
|                  | %  | 49.3  | 42.0  | 34.6  | 26.4  | 60.0   |
| 計                |    | 2633  | 1351  | 593   | 242   | 5      |
|                  |    | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0  |

表4 大学院入学資格審査の認知と学歴

|                  |    | 専門・専修学校 | 短期大学  | 大学    | 大学院修士課程 | 大学院博士課程 |
|------------------|----|---------|-------|-------|---------|---------|
| よく知っている          | 人数 | 261     | 49    | 77    | 16      | 0       |
|                  | %  | 7.2     | 8.8   | 12.1  | 66.7    | 0.0     |
| 制度は知っているが条件は知らない | 人数 | 1757    | 255   | 281   | 4       | 0       |
|                  | %  | 48.6    | 45.9  | 44.2  | 16.7    | 0.0     |
| 知らない             | 人数 | 1600    | 251   | 278   | 4       | 1       |
|                  | %  | 44.2    | 45.2  | 43.7  | 16.7    | 100.0   |
| 計                |    | 3618    | 555   | 636   | 24      | 1       |
|                  |    | 100.0   | 100.0 | 100.0 | 100.0   | 100.0   |

表5 大学院入学資格審査の認知と職位

|                  |    | 非役職者  | 役職者   |
|------------------|----|-------|-------|
| よく知っている          | 人数 | 322   | 76    |
|                  | %  | 7.1   | 27.3  |
| 制度は知っているが条件は知らない | 人数 | 2132  | 165   |
|                  | %  | 4.7   | 59.4  |
| 知らない             | 人数 | 2104  | 37    |
|                  | %  | 46.2  | 13.3  |
| 計                |    | 4558  | 278   |
|                  |    | 100.0 | 100.0 |

とも高く、ついで、大学卒業者と続いていた(表4)。職位別にみると、非役職者に比較して役職者の認知度は20%以上も高かった(表5)。

## 2. 大学院への進学ニーズ

### 1) 現在の本学修士課程への進学希望

現行課程での本学修士課程へ進学したいと回答した者は123人(2.6%)、できれば進学したいと回答した者は1453人(30.3%)であり、合わせて1576人(32.9%)か

ら進学を希望する回答を得た。なお、無回答者89人は除く。

一方で、現在も将来も希望しないと回答した者は3183人(66.3%)、現在他大学修士課程在学中または修了している者は40人(0.8%)であった。

学歴別に現行課程への進学希望をみると、専門・専修学校卒業者と短期大学卒業者、大学卒業者では同様の結果が認められた(表6)。年齢層別にみると、30歳代の進学希望がもっとも高かった(表7)。職位別にみると、非

表6 進学希望と学歴

|       |    | 専門・専修学校 |       | 短期大学  |       | 大学    |       | 大学院修士課程 |       | 大学院博士課程 |       |
|-------|----|---------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|---------|-------|
|       |    | 現行課程    | 新課程   | 現行課程  | 新課程   | 現行課程  | 新課程   | 現行課程    | 新課程   | 現行課程    | 新課程   |
| 希望する  | 人数 | 1177    | 1833  | 176   | 280   | 207   | 335   | 4       | 13    | 0       | 0     |
|       | %  | 33.1    | 52.7  | 32.2  | 52.4  | 33.8  | 54.6  | 57.1    | 68.4  | 0.0     | 0.0   |
| 希望しない | 人数 | 2384    | 1646  | 370   | 254   | 406   | 278   | 3       | 6     | 0       | 1     |
|       | %  | 66.9    | 47.3  | 67.8  | 47.6  | 66.2  | 45.4  | 42.9    | 31.6  | 0.0     | 100.0 |
| 計     |    | 3561    | 3497  | 546   | 534   | 636   | 613   | 7       | 19    | 0       | 1     |
|       |    | 100.0   | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0   | 100.0 | 100.0   | 100.0 |

表7 進学希望と年齢層

|       |    | 20歳代  |       | 30歳代  |       | 40歳代  |       | 50歳代  |       | 60歳代以上 |       |
|-------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
|       |    | 現行課程  | 新課程   | 現行課程  | 新課程   | 現行課程  | 新課程   | 現行課程  | 新課程   | 現行課程   | 新課程   |
| 希望する  | 人数 | 736   | 1279  | 581   | 801   | 197   | 300   | 49    | 77    | 2      | 1     |
|       | %  | 28.4  | 50.3  | 44.5  | 62.2  | 34.1  | 52.6  | 20.9  | 33.5  | 40.0   | 25.0  |
| 希望しない | 人数 | 1857  | 1265  | 724   | 487   | 380   | 270   | 186   | 153   | 3      | 3     |
|       | %  | 71.6  | 49.7  | 15.4  | 37.8  | 65.9  | 47.4  | 79.1  | 66.5  | 60.0   | 75.0  |
| 計     |    | 2593  | 2544  | 1305  | 1288  | 577   | 570   | 235   | 230   | 5      | 4     |
|       |    | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0  | 100.0 |

表8 進学希望と職位

|       |    | 非役職者  |       | 役職者   |       |
|-------|----|-------|-------|-------|-------|
|       |    | 現行課程  | 新課程   | 現行課程  | 新課程   |
| 希望する  | 人数 | 1458  | 2318  | 108   | 146   |
|       | %  | 32.7  | 53.0  | 40.0  | 53.9  |
| 希望しない | 人数 | 2998  | 2055  | 162   | 125   |
|       | %  | 67.3  | 47.0  | 60.0  | 46.1  |
| 計     |    | 4456  | 4373  | 270   | 271   |
|       |    | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

役職者よりも役職者の進学希望者割合が若干高かった(表8)。

2) 本学新設修士課程への進学希望と希望領域

CNSコースや認定看護管理者コース、助産師養成コースの新たな設置を内容とする本学新設課程へ、進学したいと回答した者は335人(7.1%)、できれば進学したいと回答した者は2145人(45.7%)であり、合わせて2480人(52.8%)から進学を希望する回答を得た。なお、無回答者193人を除く。

上記1)の現行課程への進学希望者と比較すると、904人の増加が認められた。一方、現在も将来も進学を希望しないと回答した者は、2196人(46.8%)であった。

学歴別、年齢層別、職位別に現行課程との比較をすると、すべてにおいて、新設課程への進学希望者の割合が増加していた(表6~8)。

新設課程を開講した場合に進学を希望する領域について、表9に示す回答を得た(複数回答)。進学希望者2480人のうちで希望者が最も多い領域は、がん看護(CNS)の941人であった。次いで在宅看護(CNS)の628人、老人看護(CNS)の464人、地域看護(CNS)の411人、小児看護(CNS)の389人、認定看護管理者コースの388人が続いている。

3) 本学博士課程への進学希望と希望する研究分野

将来、本学に博士課程が設置された場合に博士課程へ進学したいと回答した者は86人(1.9%)、できれば進学

したいと回答した者は361人(7.9%)であった。また、分野によっては進学したいと回答した者は、1010人(22.1%)であった。ただし、無回答者310人を除く。開設する研究分野と、進学希望者の志望分野が合致するならば、合計1457人が博士課程への進学を希望することになる。

博士課程への進学希望者を学歴別にみると、大学院修士課程修了者の進学希望がもっとも高く、大学卒業者と短期大学卒業者、専門・専修学校卒業者の希望割合はほ

ぼ同様であった(表10)

年齢層別にみると、30歳代の進学希望者割合がもっとも高かった(表11)。職位別には、進学希望割合に違いはみられなかった(表12)。

希望する研究分野について、記述にて回答を求めたところ、340人から回答が得られた。記述内容から看護学研究分野と他の研究分野に分類し、看護学研究分野は類似する研究分野ごとに集計した。記述内容に複数の研究分野が記されている回答は、研究分野ごとに1回答として分離して集計した。なお、「CNSコース」や「WOC」など博士課程研究分野に該当しないと考えられる回答も数多くあった。これらは除外して集計した。

結果は表13に示すように、15の研究分野とその他の分野へと分類できた。希望が最も多かったのは、がん看護に関連する分野であり、次いで成人看護学急性期に関する分野、小児看護学に関する分野、母性看護学・助産学に関する分野、精神看護学に関する分野と続いている。

その他に示すように、心理学など看護学以外の学問領域を希望するとの回答も認められた。

大学院入学資格審査認知状況から博士課程進学希望結果をみると、進学希望者の36.5%が資格審査に関して認知が低かった(表14)。

本学に博士課程が設置されても進学を希望しない者は

表9 新設課程進学希望領域

n=2480(複数回答)

| 領域            | 希望者数 | %    |
|---------------|------|------|
| がん看護(CNS)     | 941  | 37.9 |
| 在宅看護(CNS)     | 628  | 25.3 |
| 老人看護(CNS)     | 464  | 18.7 |
| 地域看護(CNS)     | 411  | 16.6 |
| 小児看護(CNS)     | 389  | 15.7 |
| 認定看護管理者コース    | 388  | 15.6 |
| 精神看護(CNS)     | 385  | 15.5 |
| 成人看護慢性期(CNS)  | 317  | 12.8 |
| クリティカルケア(CNS) | 251  | 10.1 |
| 助産師養成コース      | 240  | 9.7  |
| 母性看護(CNS)     | 105  | 4.2  |

表10 博士課程進学希望者と学歴

|       |    | 専門・専修<br>学校 | 短期大学  | 大学    | 大学院<br>修士課程 | 大学院<br>博士課程 |
|-------|----|-------------|-------|-------|-------------|-------------|
| 希望する  | 人数 | 1059        | 167   | 209   | 13          | 0           |
|       | %  | 31.3        | 31.8  | 34.3  | 59.1        | 0.0         |
| 希望しない | 人数 | 2323        | 358   | 400   | 9           | 1           |
|       | %  | 68.7        | 68.2  | 65.7  | 40.9        | 100.0       |
| 計     |    | 3382        | 525   | 609   | 22          | 1           |
|       |    | 100.0       | 100.0 | 100.0 | 100.0       | 100.0       |

表11 博士課程進学希望者と年齢層

|       |    | 20歳代  | 30歳代  | 40歳代  | 50歳代  | 60歳代<br>以上 |
|-------|----|-------|-------|-------|-------|------------|
| 希望する  | 人数 | 713   | 521   | 167   | 43    | 0          |
|       | %  | 28.4  | 41.6  | 30.9  | 19.5  | 0.0        |
| 希望しない | 人数 | 1797  | 731   | 373   | 177   | 5          |
|       | %  | 71.6  | 58.4  | 69.1  | 80.5  | 100.0      |
| 計     |    | 2510  | 1252  | 540   | 220   | 5          |
|       |    | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0      |

3112人(68.0%), 他大学大学院に在学中または修了している者は9人(0.2%)であった。

4) 大学院進学希望者の仕事継続意向

大学院に進学を希望する回答者へ、進学する場合に現在の仕事を継続するか、辞職するかを質問し、進学希望者の2058人から回答を得た。結果、表15に示すように継続すると回答した者は1027人(20.1%)であり、辞職すると回答した者は554人(11.3%)、わからないと回答した者は477人(9.7%)であった。

継続するとの回答者1027人に継続方法を質問した結果(表16)、1000人から回答を得た。現状のままとの回答は240人(23.3%)であり、勤務形態や部署の変更が可能であれば継続するとの回答が744人(72.4%)と多かった。他の継続方法について、記述回答を集計した結果、16人(1.5%)から回答を得た。「休職希望」が8人、「職場との調整」5人、「夜間開講があれば継続する」2人、「現行の科目等履修制度を利用する」1人であった。

辞職するとの回答者554人にその理由を質問した結果(複数回答)(表17)、職場の勤務形態や修業状況から継続は難しいとの回答が388人と最も多かった。次いで、仕事の継続は可能であるが学業に専念したいとの回答が

138人、地理的問題があり仕事の継続は難しい78人、服務規程で辞職しなければならない44人であった。他の辞職理由について、記述回答を集計した結果、4人から回答を得た。「家庭の事情」が3人、「経済的理由」1人であった。

仕事の継続について、年齢層別にみると、20歳代に辞職の意向がもっとも高かった(表18)。職位別にみると、役職者の8割以上が継続する意向をもっていた(表19)。

5) 大学院進学の意味決定時に問題となることと、大学への要望

対象者4888人の32.2%にあたる1575人から記述回答を

表14 博士課程進学希望と入学資格審査の認知

|                  |    | 希望する  | 希望しない |
|------------------|----|-------|-------|
| よく知っている          | 人数 | 183   | 190   |
|                  | %  | 12.6  | 6.1   |
| 制度は知っているが条件は知らない | 人数 | 738   | 1434  |
|                  | %  | 50.9  | 46.2  |
| 知らない             | 人数 | 529   | 1478  |
|                  | %  | 36.5  | 47.6  |
| 計                |    | 1450  | 3102  |
|                  |    | 100.0 | 100.0 |

表12 博士課程進学希望と職位

|       |    | 非役職者  | 役職者   |
|-------|----|-------|-------|
| 希望する  | 人数 | 1357  | 90    |
|       | %  | 31.7  | 35.3  |
| 希望しない | 人数 | 2924  | 165   |
|       | %  | 68.3  | 64.7  |
| 計     |    | 4281  | 255   |
|       |    | 100.0 | 100.0 |

表15 仕事継続意向

n=4888単位:人(%)

|       |            |
|-------|------------|
| 継続する  | 1027(21.0) |
| 辞職する  | 554(11.3)  |
| わからない | 477(9.7)   |
| 無回答   | 2830(57.9) |

表13 博士課程 希望する研究分野

| 研究分野      | 回答数 | 回答例                               |
|-----------|-----|-----------------------------------|
| がん看護      | 60  | がん看護、緩和ケア、終末期看護                   |
| 成人看護学急性期  | 49  | 周手術期、救急、集中治療、急性期看護                |
| 小児看護学     | 44  | 小児看護、新生児看護、障害児看護                  |
| 母性看護学・助産学 | 41  | 母性看護、周産期、助産学、不妊看護                 |
| 精神看護学     | 41  | 精神看護                              |
| 在宅看護学     | 24  | 在宅看護、訪問看護                         |
| 看護管理学     | 22  | 看護管理、看護経済学、医療安全                   |
| 地域看護学     | 19  | 地域看護、産業保健                         |
| 老人看護学     | 18  | 老年看護                              |
| 感染管理      | 12  | 感染管理、感染症看護                        |
| 国際救援・災害看護 | 7   | 国際救援、災害看護、国際保健                    |
| 成人看護学慢性期  | 7   | 成人看護(慢性)、糖尿病                      |
| 家族看護学     | 7   | 家族看護、家族ケア                         |
| 看護教育学     | 5   | 看護教育                              |
| 基礎看護学     | 4   | 看護理論、基礎看護                         |
| その他       | 46  | 心理学、社会福祉、予防医学、経営財務、医療法学、栄養学、情報、透析 |

表16 仕事の継続方法

n=1027単位:人(%)

|                |            |
|----------------|------------|
| 仕事の調整が可能なら継続する | 744(72.4%) |
| 現状のまま継続する      | 240(23.3%) |
| その他            | 16(1.5%)   |
| 無回答            | 27(2.6%)   |

表17 辞職の理由(複数回答)

n=554単位:人

|                |     |
|----------------|-----|
| 勤務形態や就業状況から難しい | 388 |
| 学業に専念したい       | 138 |
| 地理的問題がある       | 78  |
| 服務規程による        | 44  |
| その他            | 4   |

表18 仕事継続意向と年齢層

n=1483

|      |    | 20歳代  | 30歳代  | 40歳代  | 50歳代  | 60歳代以上 |
|------|----|-------|-------|-------|-------|--------|
| 継続する | 人数 | 418   | 363   | 156   | 28    | 1      |
|      | %  | 56.4  | 71.0  | 83.9  | 63.6  | 100.0  |
| 辞職する | 人数 | 323   | 148   | 30    | 16    | 0      |
|      | %  | 43.6  | 29.0  | 16.1  | 36.4  | 0.0    |
| 計    |    | 741   | 511   | 186   | 44    | 1      |
|      |    | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0  |

得た。記述回答を意味内容ごとに分離し、①意思決定時に問題となること、②大学への要望、それぞれについて類似項目ごとにカテゴリー化して集計した。

#### (1) 進学の意思決定をする際に問題となるもの(表20)

最も多かった回答は経済的問題であり、778人の回答に記載されていた。次いで、仕事との両立、家庭との両立、自己の学力や年齢など個人的問題、教育課程、受験や就学に伴う時間確保、修了後の就業状況、入学資格・試験、キャンパスの至便性、教員の質と続いている。

#### (2) 大学組織への要望(表21)

最も多かったのは、教育課程についてであった。上記(1)で仕事との両立が問題となるとの回答が多くあったことを反映し、仕事との両立を前提とした回答が多く認められ、夜間コースの設置や通信課程、土日休日開講、修学年限延長コースといった回答が多く認められた。次いで、経済的援助としての奨学金制度や授業料減額であった。情報提供を求める回答もあった。入学資格・試験水準の緩和では、社会人枠の拡大や入学受け入れを緩和し、修了レベルを高くすることを希望する回答もあった。託児施設を求める回答もあった。

### 3. 修士課程における、CNSコース、認定看護管理コースの設置に対する意見

有効回答数4888人に対して当該質問に対する記載は1036件あった。ここから、「特になし」または「なし」と

表19 仕事継続意向と職位

n=1485

|      |    | 非役職者  | 役職者   |
|------|----|-------|-------|
| 継続する | 人数 | 878   | 85    |
|      | %  | 63.5  | 82.5  |
| 辞職する | 人数 | 504   | 18    |
|      | %  | 36.5  | 17.5  |
| 計    |    | 1382  | 103   |
|      |    | 100.0 | 100.0 |

記載されたものを除いた994件の自由記載を分析の対象とした。自由記載意見の概要を表22に示した。

994件の記載内容のうち、「設置に賛成する意見」が630件(63.4%)であり、最も多かった。具体的には、単純に「賛成」「是非設置して欲しい」というものやCNSコース、認定看護管理者コースの「設置はよいことである」という意見が287件(28.9%)であった。「看護師の専門性を高めるためにCNSや認定看護管理者コースの設置は必要である」という意見が159件(16.0%)であった。次に、「CNSを取るため、県外に出なければならない。今のところ職員の身分保障ができているので県立看護大学でこれらが設置され、当院の職員が入学、卒業できるようになると予算から見ても有益である」「愛知県内に学習できる場があるといい」などのように、愛知県内に設置されることに賛成する意見が、100件(10.1%)と多かった。また、設置によって「CNS、認定看護管理者が

表20 意思決定時に問題となること

| 分類名       | 回答数 | 回答例   |
|-----------|-----|---|
| 経済的問題     | 778 | 学費、生活費、お金、収入がなくなること   |
| 仕事との両立    | 386 | 仕事との両立、勤務状況、職場の状況   |
| 家庭との両立    | 260 | 家庭の問題、育児、家族の協力  |
| 個人的問題     | 194 | 年齢、学力、やる気、学びたい分野が定まらない                                      |
| 教育課程      | 161 | 興味ある内容かどうか、臨床に活用できる内容か、講義の充実度、働きながら受講できる時間帯かどうか、夜学・通信課程かどうか |
| 時間確保      | 90  | 時間、時間確保   |
| 修了後の就業    | 82  | 卒業後の就職先、再就職の可能性   |
| 入学資格・試験   | 59  | 入学資格、試験の難度、英語受験   |
| キャンパスの至便性 | 49  | 通学困難、遠い、キャンパスの立地条件  |
| 教員の質      | 26  | その分野に精通している教授、教授陣の実績  |

表21 大学への要望

| 分類名          | 回答数 | 回答例  |
|--------------|-----|--|
| 教育課程         | 119 | 勤務しながら学べる教育、夜間コース、通信コース、集中講義、土日休日開講、修業年限延長、現場に関連のある教育・研究内容、事務・図書館の対応時間延長 |
| 経済的援助        | 48  | 奨学金制度、助成金制度、授業料減額  |
| 情報提供         | 33  | 詳しい情報が欲しい、教育内容の実際を教えて欲しい、情報が少ない  |
| 入学資格・試験水準の緩和 | 23  | 社会人枠の拡大、入学しやすく卒業を厳しくして欲しい  |
| 託児施設         | 16  | 託児施設、保育施設  |

増えることはよい」いう意見は26件（2.6%）であった。

続いて、「設置方法に関する希望」が133件（13.4%）であった。内訳は、「コースの種類を増やして欲しい」という意見が44件（4.4%）であり、看護管理やがん看護の希望が多かった。「仕事をしながらでも行けるようなシステムにして欲しい」という希望が32件（3.2%）であった。「奨学金制度をつける」「学費を安くして欲しい」という意見が14件（1.4%）であった。

「CNSコース、認定看護管理者コースについてカリキュラム内容、受験資格、資格制度などについて詳しく知りたい」という意見は、46件（4.5%）であった。

「受験資格に関する希望」が40件（4.0%）であった。具体的には、「机上の空論になっては意味がないので、臨床経験がある程度あり、その中から目的意識を持った人が進学できるようにするのがよい」などのように「臨床経験を重視して欲しい」という意見が18件（1.8%）であった。学歴について、「一般大学卒や専門学校卒、短大卒でも受験できるようにして欲しい」という意見が7件（0.7%）であった。

「教育内容に関する意見」が29件（2.9%）であり、「医療の現場と学校教育でのギャップが多い領域であると痛感する為、現場の実情を加味した上で役立つような授業内容や制度の導入を求める」などの意見が記載されていた。

「資格を生かせる現場の整備」に関する意見が、23件（2.3%）であった。回答例は「各種資格や専門知識を活用できる現場はまだ少ないので、人員養成と同時に、現場での必要性や有資格者の活用方法をアピールしていく必要がある」「学歴をただ重ねるだけでは意味がない。資格が生かせる場が必要。待遇なども受け入れる側として考えて欲しい。それでなくては、時間とお金をかけて頭でっかちになるだけ」という意見が23件（2.3%）であった。

コースの設置に否定的な意見として、以下のような意見があった。「CNSは学校にいく期間が長すぎて、現場をわすれてしまいそうである」「修士課程でしか、認定を受けられないような、社会にして欲しくない」「修士を目指すことは世の中の流れとしてよいことではあるが、現



表22 CNS、認定看護管理者コース設置に関する自由記載による意見の概要

| 大項目                          | N   | %     | 中項目                               | N   | %     |                                    |    |     |
|------------------------------|-----|-------|-----------------------------------|-----|-------|------------------------------------|----|-----|
| 設置に賛成する意見                    | 630 | 63.4  | 賛成、良いことだと思う、是非設置して                | 287 | 28.9  |                                    |    |     |
|                              |     |       | 専門性を高めるために必要である                   | 159 | 16.0  |                                    |    |     |
|                              |     |       | 愛知県内に設置することが良い                    | 100 | 10.1  |                                    |    |     |
|                              |     |       | 学びたい、学ばせたい                        | 32  | 3.2   |                                    |    |     |
|                              |     |       | CNS、専門看護師、認定看護師が増え<br>ると良い        | 26  | 2.6   |                                    |    |     |
|                              |     |       | 興味がある                             | 12  | 1.2   |                                    |    |     |
|                              |     |       | CNS、専門看護師、認定看護師になりた<br>進学したい人が増える | 7   | 0.7   |                                    |    |     |
|                              |     |       |                                   | 7   | 0.7   |                                    |    |     |
|                              |     |       | 開設方法に関する希望                        | 133 | 13.4  | コースの種類を増やして欲しい                     |    |     |
|                              |     |       |                                   |     |       | (内訳)単に増えると良い                       | 13 | 1.3 |
| 管理                           | 5   | 0.5   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| がん                           | 3   | 0.3   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| 救急                           | 3   | 0.3   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| 小児                           | 3   | 0.3   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| 精神                           | 3   | 0.3   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| 急性期                          | 2   | 0.2   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| 透析                           | 2   | 0.2   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| 不妊                           | 2   | 0.2   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| ホスピス                         | 2   | 0.2   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| 重症集中ケア                       | 2   | 0.2   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| 嚥下                           | 1   | 0.1   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| 感染管理                         | 1   | 0.1   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| 助産師                          | 1   | 0.1   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| WOC                          | 1   | 0.1   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| 仕事と両立できるようにしてほしい             | 32  | 3.2   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| コースの定員、開設大学を増やしてほし           | 31  | 3.1   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| 学費を安くして欲しい                   | 14  | 1.4   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| 開設時間、夜間コースの設置希望              | 6   | 0.6   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| 通信制の設置希望                     | 4   | 0.4   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| 子供がいても学べる環境づくり               | 2   | 0.2   |                                   |     |       |                                    |    |     |
| CNS認定コースや資格制<br>度について詳しく知りたい | 46  | 4.6   |                                   |     |       |                                    | 46 | 4.6 |
| 受験資格に関する希望                   | 40  | 4.0   |                                   |     |       | 臨床経験を重視して欲しい                       | 18 | 1.8 |
|                              |     |       |                                   |     |       | 学歴(一般大学卒、専門学校卒、短大卒<br>でも受験可にして欲しい) | 7  | 0.7 |
|                              |     |       |                                   |     |       | 試験の難易度が高い                          | 4  | 0.4 |
|                              |     |       |                                   |     |       | 上司の推薦が受けにくい                        | 4  | 0.4 |
|                              |     |       | 職場からの支援が必要                        | 3   | 0.3   |                                    |    |     |
|                              |     |       | 年齢制限を高くしてほしい                      | 3   | 0.3   |                                    |    |     |
|                              |     |       | 面接重視                              | 1   | 0.1   |                                    |    |     |
| 制度・資格がわからない                  | 36  | 3.6   |                                   | 36  | 3.6   |                                    |    |     |
| 教育内容に関する意見                   | 29  | 2.9   |                                   | 29  | 2.9   |                                    |    |     |
| 就職後の現場で資格が生<br>かされる体制を整備が必要  | 23  | 2.3   |                                   | 23  | 2.3   |                                    |    |     |
| 否定的意見                        | 20  | 2.0   |                                   | 20  | 2.0   |                                    |    |     |
| 修士課程とCNS専門コー<br>スのあり方に関する意見  | 20  | 2.0   |                                   | 20  | 2.0   |                                    |    |     |
| 興味がない                        | 17  | 1.7   |                                   | 17  | 1.7   |                                    |    |     |
|                              | 994 | 100.0 |                                   | 994 | 100.0 |                                    |    |     |

場での看護力の向上には非協力的で、職場がCNSに対し評価が低いため、修了後は孤独な立場として想像できる。

CNSコース、認定看護管理者コースのあり方に関して、「CNSの認定を国家資格までに引き上げ、収入に結びつく制度であれば、取得を考える」「専門職大学院や法科大学院のようにもう少し目的を明確にしたほうがよい。また薬学部も6年間の教育になる中、大学での看護学のあり方をまず検討してはどうか」という意見であった。

最後に「わからない」「資格やコースの内容がわからないので回答できない」という記載が36件(3.6%)であり、「興味がない」という記載が17件(1.7%)であった。

#### 4. 修士課程における助産師養成コースの設置に対する意見

対象者4888人の11.8%にあたる566人から記述回答を得た。設置に対する回答を1)賛成意見、2)否定意見や興味がない意見、3)賛成・反対の判断がつかない意見、4)その他と大きく4分類にした。さらにそこから記述回答を意味内容ごとに分離し、それぞれについて類似項目ごとに集計した。

##### 1) 設置に賛成する意見

設置に対する回答は、「賛成」や「設置に賛成」という賛成意見は238件であった。また理由内容の記載があるものは150件あった。

一番多かったものは、「質の向上・専門性が高まる」28件で、以下は次の通りであった。「現行の教育システムより修士に設置した方がよい」18件、「助産師の門戸が広がる」13件「助産師を目指す人には良いことだ」10件、「少子化だからこそ必要」5件、「需要があれば設置した方がよい」2件、「その他」18件であった。そのうち「その他」の回答例は、「助産師の国家試験も受けられるとよいと思う」、「定員枠は少ないと思うが、あればよいと思う」であった。

##### 2) 否定意見や興味がない意見

設置に対して否定的な意見や興味がない意見は53件であった。そのうち、理由内容の記載があるものは23件あった。その内容は、「新たに修士課程を設置することへの疑問」14件、「少子化のため必要がない」7件、「その他」2件であった。そのうち、「その他」の内容には、「一度就職してしまうと再度勉強するのは困難だと思う」、「愛知県立看護大学自体が病院に付属していないの

で病院側の理解を得るにあたり、学生にとって学びやすい環境を整えることができるように進めていくことがやや難しいような気がする」と記述されていた。

##### 3) 賛成・反対の判断がつかない意見

設置に対してわからない意見は73件であった。そのうち、理由内容の記載があるものは31件であった。その内訳は、「現行のシステムとの違いがわからない」18件、「助産師養成コースについてわからない」13件であった。

#### 5. 博士課程設置に対する意見

対象者4888人の8.0%にあたる393人から記述回答を得た。記述回答を、博士課程の設置に対して1)賛成意見、2)否定意見や興味がない意見、3)賛成・反対の判断がつかない意見、4)その他を大きく4分類し、さらにそれぞれの内容について類似項目ごとに集計した。

##### 1) 賛成意見

設置に対して賛成意見は121件であった。そのうち、理由内容の記載があるものは36件あった。そのうちの類似項目は以下の通りであった。「看護の質の向上・専門性が高まる」22件、「その他」14件であった。「その他」の主な回答例は、「看護大学に博士課程できるとはとてもよいと思う。大学卒だけではなく、現在はキャリアアップのため修士・博士まで取得したい人は沢山いると思う」「賛成。出来るだけ沢山の場所が欲しい」などがあげられた。

##### 2) 賛成・反対の判断がつかない意見

設置に対して賛成・反対の判断がつかない意見は87件であった。そのうち、理由内容の記載があるものは18件あった。その内容は、「博士課程の制度がわからない」16件、「修士と博士の違いがわからない」2件であった。

##### 3) 否定意見や興味がない意見

設置に対して否定意見や興味がない意見は44件であった。そのうち、理由内容の記載があるものは24件あった。その内容は「博士取得後、給料は上がるのか。看護師をあまり学歴によって序列をつけて欲しくない」、「CNSは必要だと思うが、現在、病棟ではCNSが特別視され、ジェネラリストたちは軽視されている印象を受けているため、あまり賛成する気はない」であった。

#### 4) その他

設置に対してその他の意見は153件であった。「システム・カリキュラムに関しての要望」21件、「博士を修了後の進路やメリットについて知りたい」17件、「学問より臨床経験を重視すべきである」15件、「仕事と両立ができる職場環境」12件、「修了後の臨床への還元」8件、「教員の質に対して」9件、「県内に必要・定員枠を増やして欲しい」8件、「受験資格条件について」6件、「博士に関する情報が知りたい」5件、「博士設置にはアピールが必要」3件、「その他」42件であった。その他の主な回答例は、「自己の開発になる」、「臨床で働ける博士修了者のスペシャリストを育てるべきだと思う」、「結局のところ、講義・ゼミ、博士論文が中心になってしまう博士課程なのではないか」であった。

### IV. 考察

#### 1. 対象者の背景と進学ニーズ

##### 1) 大学院入学資格審査の認知と対象者の背景

各年代とも「制度は知っているが条件は知らない」「知らない」がほとんどを占めており、特に20歳代～30歳代は併せて90%以上であった。一方、「知っている」と回答した割合がもっとも高い層は50歳代であった。また、学歴での認知度の格差をみてみると、大きな違いがみられなかった。このことから、学歴に関係なく年齢の若いスタッフ層ほど制度を詳しく知らないことがわかった。

##### 2) 進学希望と対象者の背景

現行課程での「進学したい」「できれば進学したい」を合わせた進学希望者は32.9%であったが、CNSや認定看護管理者コース、助産師養成コースの新たな設置を内容とする本学の新設修士課程への進学希望者は、現行課程を上回る52.8%の存在を認めた。このことは、学歴、年齢層、職位によってもすべて同様に現行課程と比較すると新設課程の方に希望者が存在していたことが確認できた。特に年齢層別では30歳代の進学希望者がもっとも高く、職位別では非役職者より役職者進学希望者割合が若干高かった。

新設課程での希望領域別（CNSコース・認定看護管理者コース・助産師養成コース）を概観すると、がん看護37.9%、在宅看護25.3%で、以下10%代が多かった分野は、老人看護、地域看護、小児看護、認定看護管理、精神看護、成人看護（慢性期）の順であった。このことは

平井らの先行研究<sup>1)</sup>での進学希望群における希望別分野でも地域看護学、成人看護学、在宅看護学が上位で進学希望者の関心領域は順位の変動があったものの変わらないことが示された。

また我部山らの先行研究<sup>2)</sup>でも希望するCNS領域をがん看護、地域看護を上位に示されていることから、がん看護や地域・在宅看護はCNSコースの設置に示唆を与える内容がわかった。

これらのことから、新設課程の設置は愛知県内看護職の進学ニーズと適合していると推察でき、新設課程には何らかの意義があると思われる。

本学に博士課程が設置された場合の進学希望は、現行課程及び新設修士課程よりも全体の比率から概算すると低率であった。

対象者の年齢層別では30歳代の進学希望がもっとも高かった。職位別には、非役職者も役職者も割合に違いがみられなかった。また、学歴別では修士課程を修了した者が一番高かったが、専門・専修学校・短期大学・大学の三者間ではほぼ同様の結果であった。

以上から修士課程と博士課程の進学希望者が30歳代に多く存在することが確認できた。この年齢は、臨床で中堅ナースから経験を積み重ね達人ナースへの移行期である<sup>3)</sup>ということと、平井ら<sup>1)</sup>や近藤ら<sup>4)</sup>の先行研究が示すように進学動機には「専門的な学問の習得」、「勉強の必要性を感じた」という理由が高値であったことから臨床経験の積み重ねから更なる看護実践能力の向上意欲と関連があると考えられる。さらに最近の病院施設で行われている人材育成等によって自己のキャリア開発が進学への動機付けになっているとも推察できる。

進学希望者の中で学歴の差がないことから、今後資格審査の新たな基準を検討する必要があると思われる。

##### 3) 仕事継続意向と対象者

「進学後も仕事を継続したい」と回答した者は50%近くの割合を確認できた。これは、平井らの研究<sup>1)</sup>で、「進学希望群のほとんどが現職場で働きながら進学を果したいという願望を持つ者が多い」と述べられており、さらに我部山らの研究<sup>2)</sup>でも「職場と受講時間との両立ができるような方策の採用」の希望者が多かったと報告されており本調査と同様の結果であった。

継続方法で多かった項目は、「勤務形態や部署の変更」で73.3%を占め、これは辞職理由で71.4%を占めた「勤

務形態や就業状況のため」と相関する。つまり、病院施設側と大学組織側の双方が、支援体制を具体的に検討する必要があるといえる。

## 2. 進学を促す大学組織側の工夫や改善

### 1) 本大学院における情報公開

現行における大学院入学資格審査の認知度は、「制度を知らない」と回答した者は44.0%で、「制度は知っているが条件を知らない」と回答した者を合わせると91.3%が資格審査を知らないという結果になる。また、新設課程予定領域における自由記述の結果からも、「修士や博士に関する制度を知らない(知りたい)、わからない」に属する自由回答はすべて合わせて130件であった。また、修士課程で認定看護師を取得できると認識されている方もいた。

一方、本学博士課程での希望分野の回答の多さは、研究分野に関するイメージが困難な状態での回答となっている可能性がある。これは情報不足を物語っている一旦であるといえる。

このような結果を踏まえ、さらに本学の新設課程予定に52.8%の進学ニーズがあること、そして自由記述に情報公開と大学院のアピールの必要性を回答していることもあわせて考えると、現在行われている広報を見直すべきだといえる。

福井ら<sup>5)</sup>の研究において、大学本部と研究科・学科・研究所などに置いている部局の双方の広報セクションでの活動内容で多いものは、「ホームページの開設」「学外向け広報誌の発行」「学内向け広報誌の発行」「新聞や雑誌広告」「社会・一般向けのイベントの開催」「広報ビデオ・DVD・CD-ROMの制作」などが挙げられており参考になるであろう。しかし、広報の年間活動予算に視点をあてると公立が一番低くなっており、広報の専従者は公立では本部及び部局とも0.0%であったことから、愛知県広報公聴課との連携を強め、横割り行政を進めて行くことが必要であると考えられる。さらに、看護系大学の特色として病院施設に多くの看護職が存在していることから直接病院施設に大学院に関する情報を発信していくことも方策になるであろう。

### 2) 仕事との両立が実現可能になる方策

進学の意思決定に問題となる最も多い要因が経済的問題であった。それと併に仕事との両立を希望している回答も多く、澤井らの研究<sup>6)</sup>でも同様の回答が報告されて

いる。この結果より大学組織は、看護職が仕事を辞職せず学業との両立が実現可能になる方策を一番に考えなければならぬだろう。

現在の愛知県立大学組織は、科目等履修生の個別の入学資格審査の整備やサテライトキャンパスなど微力ながら方策を取り続けている。しかし、今回の結果から決して充実しているとは言い難いことがわかった。特に、平成13年度のニーズ調査結果や他の先行研究<sup>1)2)</sup>でも同様の結果があらわれた「夜間開講コース」、「土・日・祝日開講」、「修業年限延長コース」の設置は、必須の改善を要すると考える。

ただし「土・日・祝日開講」においては、現在、隔週土曜日にサテライトキャンパスにて開講していることは評価すべき内容である。だが、平成15年度の村山らの研究<sup>7)</sup>でサテライトキャンパスの今後の課題として、①大学院レベルの講義内容の維持、②科目等履修生の大学院への進学の推進、③大学院生、科目等履修の相互作用の促進、④サテライトキャンパスの開講科目の多様性、⑤教育設備の改善、担当教員と科目等履修生の連絡・調整をあげているため、これらは社会人のニーズに応えるためにも引き続き今後も検討していく内容にすべきであろう。また「夜間開講コース」では、自由記述にも挙げられていたようにキャンパスの立地条件や通学条件を考慮して欲しいニーズを考慮すると、JR高蔵寺駅から徒歩約20分を短縮する方向や開始時間の改善の余地がある。

### 3) 入学選抜方法と修了後の進路

現在の社会人特別選抜方法の基準は実務経験10年以上という付帯要件を課せられている。だが、今回の調査で注目すべきは、20~40歳代の進学希望者が他の年齢層より多いことである。そのため20歳代からの入学を可能にするためにも実務経験年数の再検討をすべきであろう。

次に、新設課程を開設する場合の自由記述からうかがえるように、修了後の職場で活かされる体制の整備を望む回答から、病院施設と大学組織が一体となって支援できる体制作りを模索して行かねばならないと考える。

### 4) 新設課程の設置について

新設課程の設置について自由記述で賛成意見と回答した割合は、CNS・認定看護管理者コースは63.4%、助産師養成コース設置68.0%、博士課程設置23.7%であった。特にCNS・認定看護管理者コース、助産師養成コースの設置は6割以上が賛成であったことから、本学での開設

を促す結果といえる。その賛成意見の多くは看護の質の向上や専門性が高まることを理由としている。その反面、知識が先行してしまうのではないかと危惧する回答や臨床経験の大切を唱える回答があったことから教育カリキュラムの構築はこのようなニーズを反映した吟味が望まれる。

そして、教員の質を問う回答も多くみられた。2000年に大学審議会から出されたグローバル化時代に求められる高等教育の在り方についての答申で、大学の教員は、研究者としてばかりでなく、教育者としてのアイデンティティを持つこと、および学生の教育の改善には、個人ばかりでなく組織として取り組むことという2つを強調している。また、田中は大学が大衆化された近年において大学の教員は研究者の前に教育者であるという理念を根底におき教授の質を向上していく必要があると唱えている<sup>8)9)</sup>。

現在本大学組織ではFD委員会を通し活動を続けているが、前述のこれからの主旨から、統合化や法人化に向けても、委員会に委ねるだけでなく、教員一人一人が真摯にFDを検討し組織的に取り組み続けていかなければならない重要な示唆を得たと考える。

## V. まとめ

愛知県内の病院で働く看護師を対象に、愛知県立看護大学大学院への進学ニーズを調査した結果、看護師が大学院への進学を希望（現行課程への進学希望32.9%、新設修士課程への進学希望52.8%）していながらも、進学体制を整えることに苦慮していることが明らかになった。

また本学大学組織員一人一人が、この調査結果を共有し、そして修士課程におけるCNS・認定看護管理者コース、助産師養成コースの新設、博士課程新設など、大学院教育課程の充実と、就学しやすい制度の拡充を果たすことは、本学大学組織にとって意義があることだと示唆された。

[本調査は平成17年度博士課程小委員会活動の一環として実施されたものである.]

## 謝辞

調査にあたりご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

## 文献

- 1) 平井さよ子他：看護職の大学院への進学ニーズに関する調査，愛知県立看護大学紀要，Vol. 8, 33-40, 2002
- 2) 我山部キヨ子他：三重大学大学院医学系研究科看護学専攻（修士課程）設置への期待と要望，三重看護学誌，3(1), 195-203, 2000
- 3) Patricia Benner/井部俊子他：ベナー看護論——達人ナースの卓越性とパワー——，医学書院，2003
- 4) 近藤由香他：看護系大学院修士課程の入学志望動機・目的とその関連要因，日本看護研究学会雑誌，28(1), 101-107, 2005
- 5) 福井康雄他：大学から社会への情報発信の研究，平成16年度文部科学省科学研究費補助金萌芽研究，2005，<http://media.lang.nagoya-u.ac.jp/houga2004/>
- 6) 澤井信江他：看護学・保健学系大学院に対する既進学者のニーズ，滋賀医科大学看護学ジャーナル，2(1), 3-11, 2004
- 7) 村山正子他：サテライトキャンパス事業の現状と今後の課題，平成15年度愛知県立看護大学学長特別教員研究費助成研究，2004
- 8) 田中每実：臨床的人間形成論へ——ライフサイクルと相互形成——，勁草書房，2003
- 9) 大学審議会：「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」（答申）[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/main\\_b5.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/main_b5.htm)